

【シラバス作成ガイドライン】

平成31年度

名古屋プライダルビューティー専門学校

学期	前期	学年	1年生	学科	プライダルビューティー	コース	プライダルスタイリスト
講師	山田花子	授業科目	エステティック	形態	講義	教室	2F奥
曜日	月・木	時限	1~6	コマ数	180		
授業内容 授業方法	〇〇資格に添った演習授業を進めます。1~7回目までは講義を中心とし、8~14回目まではこれまでの知識を実習によって習得をする。						
到達目標	エステティシャンセンター試験とAEA認定エステティシャンの合格。						
講師 実務経 験	エステティシャンとして●年の経験があり、これまでに●●人以上の施術を行ってきた。接客やマナーや礼儀作法なども含め。指導者としても、これまでに●●人のエステティシャンを養成してきた。技術だけでなく、社会人として即戦力で働けられる姿勢などを授業で身に付けていく。						
目指す 資格	エステティシャンセンター試験	指定検定	×				
	AEA認定エステティシャン	指定検定	○				
		指定検定					

check 1

授業の内容・方法や進め方を具体的に記入してください。

check 2

この授業の意義、学生に身に付けて欲しい事柄について、授業目的(ねらい)を具体化してください。

check 3

どのような実務経験を活かして、担当する授業科目や授業計画を行うか明記してください。

check 4

毎回の授業テーマもしくは授業予定を記入してください。

■授業テーマ・授業予定
15回(週)に分けた上で、毎回の授業
テーマ・授業予定を記入。
最終回は定期試験を設定してください。

回数	月日	授業計画	実施内容
1	/	<p>シラバスとは</p> <p>【教員にとっては】</p> <p>①シラバスは、教員が体系的な教育課程を踏まえ、学生の視点を考慮して、授業設計をするためのものです。教員は、シラバスを作成することで、その授業で、学生の学力向上のために、何を、どこまで、どの程度、どのように教えるかを明確にできます。</p> <p>②シラバスは、授業設計の観点からは、PDCAのP(計画)に相当します。その後、実際にシラバスにそって運用され(D)、適切に評価され(C)、評価に基づいて年々更新・改善される(A)ものです。このように、シラバスを実際に活用してみて、学生の学習意欲と学力向上の状況を確認しながら、だんだんと質を高めていく姿勢が大切です。</p> <p>③シラバスは、教員と学生の「約束」であり、教員は授業に責任を持ちます。</p> <p>【学生にとっては】</p> <p>①シラバスは、学生がその授業について知り、理解をするためのものです。学生は、シラバスを見て、自分が何のために何をどのように学び、何ができるようになるかを明確化し、具体的にイメージすることができます。</p>	
2	/		
3	/		
4	/		
5	/		
6	/		
7	/		
8	/		
9	/		
10	/		
11	/		
12	/		
13	/		
14	/		
15	/		

check 5

授業時間外における自己学習(予習、
復習)の内容及び方法をできるだけ
具体的に記入してください。

check 6

※非常勤講師は授業終了後に受け
付ける旨、明記してください。

授業時間 外の学習	最終授業までに教科書および参考書をすべて読み終えること。 次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。 授業の最初に前回授業内容の小テストを毎回実施するので、復習しておくこと。
教材 教科書	白衣、ナースシューズ

check 7

■評価基準
①評価配分しない項目は空欄とする。
②評価基準(その他)に評価配分した場合は、「その他の評価内容」欄に具体的な内容を記入すること。
③「定期試験」は15回目に必ず実施し、各項目の合計を評価配分は70%に設定してください。

評価基準 (%)					
定期試験 (筆記)	定期試験 (実技)	その他	その他の評価内容	平常点 (講師)	平常点 (出席)
35%	35%		例：小テスト	20%	10%

※万が一、天災、交通機関の不通などにより休講になりましたら、後日、コマ数を確保します。

※夏休み・冬休み前、試験前にそれまでのコマ数の1/5(20%)を超えて休んだ場合は、補習を受け1/5以上にしなければ期末試験を受けられません。